

平成26・27年度 尾張旭市教育委員会「地域学校支援研究」研究委嘱

地域と未来をつなぎ、自ら伸びようとする児童の育成

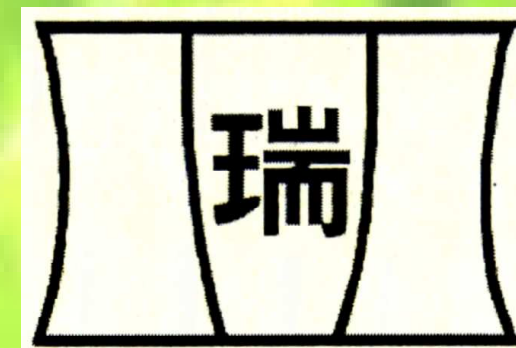
～地域のひと・もの・ことをつなぎ、創り上げ、続ける活動を通して～

研究要項



平成27年11月20日(金)

尾張旭市立瑞鳳小学校



はじめに

子ども達から「地域の方と運動会で大玉転がしとかをしたい」「月1回ほど園児と集会などで遊びたい」という声。地域からは「地域の行事に小学生も積極的に参加してほしい」という声。瑞鳳小ふれあい子ども会議では、いろいろな意見が子どもからも大人からも飛び出てきます。この瑞鳳小ふれあい子ども会議で話し合ったことをもとに、学校運営を考え、具現化するようにしています。こうすることで、子どもや地域の方が学校運営に参画できる体制を整えつつあります。

これは、本校が、愛知県教育委員会より平成26年「絆を育む学校づくり推進事業」を、尾張旭市教育委員会より平成26・27年度「地域学校支援研究」を委嘱された大きな成果となっており、本校の研究の柱の一つになっています。

また、偶然とは重なるもので、隣の川南保育園が改修工事のため、平成26年度の1年間、瑞鳳小学校の北館に仮移転することになり、同じ屋根の下で共に生活することになりました。このことで、保育士体験や園児への読み聞かせ、園児と遊ぼう会などの保小連携やキャリア教育が大きく進み、本校の研究のもう一つの柱になりました。

本研究では、平成26年3月に発表された尾張旭市教育振興基本計画の教育理念「つながり合い、伸びる尾張旭の教育」の具現化を目指し、研究主題を『地域と未来をつなぎ、自ら伸びようとする児童の育成～地域のひと・もの・ことをつなぎ、創り上げ、続ける活動を通して～』としました。

近年文科省は、「地域とともにある学校づくり」としてのコミュニティスクールや地域本部事業、学校関係者評価など、学校外部とのかかわりに関する提言をしてきました。本研究が、この複雑化する組織を統合し簡素化するヒントになればと考えました。また、授業を構想するにあたっては、ESDの視点を取り入れながら、地域のひと・もの・ことを活用した授業を目指しました。学校で学んだことが地域や生活の中で生かされ、続けることが真の学びにつながるものと考え、授業改善に取り組みました。まだまだ道半ばであり、授業改善の難しさを実感しているところです。

この2年間の研究を通して、今まで培ってきた地域とのつながりがさらに深まってきました。子ども達も地域の行事によく参加するようになり、ボランティア活動も少しずつではありますが、興味を持つ子どもがみられるようになりました。地域からも、学校や子ども達とのかかわりが増え、喜んでいただいています。「Give & Give」から「Give & Take」へと双方向の連携・協働ができはじめたと確信しているところであります。今後も、サブテーマ「つなぎ、創り上げ、続ける」にもありますように、地域とのつながりを深め、よりよい学校を創り上げ、続けられるよう、研究を進めていきたいと思っております。

最後になりましたが、本校の研究に対してご指導、ご支援をいただきました、尾張旭市教育委員会はじめ、保護者や地域の方々、関係の皆様にご心より感謝を申し上げます。

平成27年11月20日

尾張旭市立瑞鳳小学校長 松原 弘道

目 次

<研究の理論>

1 主 題	1
2 主題設定の理由	1
3 研究目標	2
4 目指す児童像・教師像・期待される家庭と地域の姿	2
5 研究仮説	2
6 研究の組織と役割	2
7 研究の手立て・方法	3
8 研究構想図	4

<各部会の実践>

1 地域学校支援とコミュニティスクールを進めるための取組	5
2 地域連携部の具体的な取組	9
3 授業部の具体的な取組	19
4 環境部の具体的な取組	27

<各学年の実践>

1 1年生の授業実践	31
2 2年生の授業実践	33
3 3年生の授業実践	35
4 4年生の授業実践	37
5 5年生の授業実践	39
6 6年生の授業実践	41
7 さくら学級・たんぼぼ学級の実践	43

研究の考察 研究の成果と今後の課題

1 実践の考察	45
2 成果と今後の課題	50

研究の理論

1 主 題

**地域と未来をつなぎ、自ら伸びようとする児童の育成
～地域のひと・もの・ことをつなぎ、創り上げ、続ける活動を通して～**

2 主題設定の理由

携帯電話やスマホなどネットワーク環境が子ども達の中にも浸透する中、地域社会での人と人との絆やつながりを大切にする心を育てることが、今後ますます重要になってきている。また、「知識基盤社会」の時代を迎え、生きる力や将来必要となる能力や資質を育むことも大切になってきている。さらに、国の動向を見ると、文部科学省が推進している「地域とともにある学校づくり」にあるように、コミュニティスクールや地域本部事業など、保護者や地域住民が学校運営に参画できる仕組みを構築していくことが求められている。

本校や本地区の実態に目を向けると、自治会や子ども会は大変活発に活動している。しかし、最近は子どもの参加が減少し十分とは言えない状況である。また、矢田川の自然や大塚古墳の史跡が残されており、特色ある教育やE S D教育ができる土壌はあるものの、授業として十分に活用できていないのが現状である。

また、子どもや教師に目を向けると、子どもも教師も地域のよさを知らなかったり、地域の人々との関わりが少なかったりして、授業の中で地域教材や地域人材が生かされていないのが現状である。また、子ども達は、ネットやゲームなどの普及によりバーチャルでの会話や遊びが増加する半面、現実生活での原体験や自然体験が減少してきており、学校で身につけた知識や技能を生活の中で活用するまでには至っていない。また、多世代との関わりが少なくなり、地域の様々な人に育ててもらおうという体験が乏しく、学校教育の中で、思いやりやいたわりの心は指導しているものの、実践する場が少なく、十分に育っていないのが現状である。

このような中、平成26年3月には、尾張旭市教育振興基本計画が発表され、教育理念を「つながり合い、伸びる尾張旭の教育」が定められた。また、本校は、愛知県教育委員会より平成26年度「絆を育む学校づくり推進事業」を、尾張旭市教育委員会より平成26・27年度「地域学校支援研究」を委嘱された。このことを踏まえ、尾張旭市の教育理念である「つながり合い、伸びる尾張旭の教育」の具現化をするために、本研究を次のように進めたいと考えた。

第1に、学校・家庭・地域のつながりをより強くし、より一層連携・協働し、子どもを育てる体制を構築したい。そのために、学校評議員会を拡大し、コミュニティスクールを視野に入れながら、学校を支援する体制を整え、学校の活性化につなげたい。

第2に、地域の教育力を生かした授業を一層推進したい。そのために、教員の授業力の向上を精力的に推進するとともに、学校を支援するボランティア組織を活性化し、様々な地域教材や地域人材を活用していきたい。

第3に、様々な世代と関わりを持たせ、つながり合う中で、人間性豊かで、生きる力を持った子どもを地域ぐるみで育てたい。そのために、子ども達が地域行事へ参加したり手伝ったりすることを推奨し、次世代を担うことができる資質を養いたい。

以上のことから、地域と未来をつなぎ、自ら伸びようとする児童を育てたいと考え、本研究主題を設定した。

3 研究目標

- (1) 学校と地域が互いに意見を出し合い、魅力ある教育活動を計画・実践し、地域に根ざした開かれた学校づくりをする。
- (2) 地域の多世代の人々や保育園の園児とつながり合い、多様で豊かな人間関係を築く中で、自ら伸びようとする気持ちを高める。
- (3) 地域のひと・もの・ことを活用し、児童の活用力や探求心を養うとともに、教員の授業力向上の一助とする。

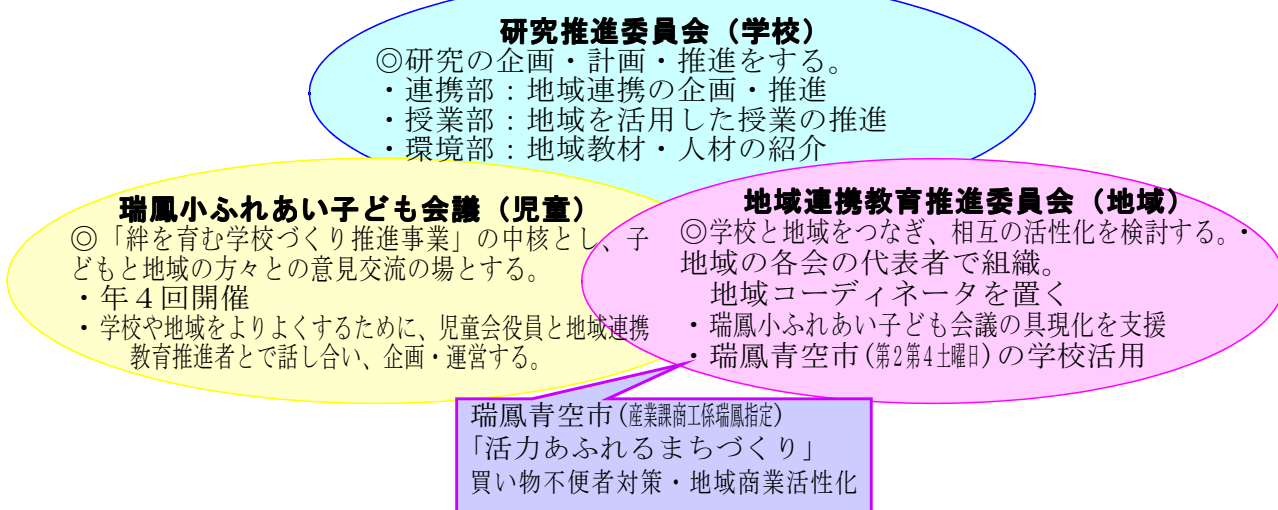
4 目指す児童像・教師像・期待される家庭と地域の姿

- (1) 目指す児童像
 - ① 多様な社会や自然の中から自ら課題を見つけ、自ら学び、進んで生かす子
 - ② 郷土に誇りと愛着を持ち、郷土に貢献できる子
 - ③ 多世代と進んでつながり合い、多様で豊かな人間関係を築く子
 - ④ 学校や地域で自らの役割を自覚し、一生懸命働く子
- (2) 目指す教師像
 - ① 地域教材や地域人材を有効に活用し、授業力を高める教師
 - ② 地域のよさを知り、誇りと愛着を深め、地域貢献する教師
 - ③ 地域・家庭と自らつながり合い、進んで良好な関係を築く教師
- (3) 期待される家庭と地域の姿
 - ① 学校・家庭・地域が互いの役割を自覚し、協力しながら子どもを育てる。
 - ② 学校への愛着と信頼を深め、協力・支援する気運を高める。

5 研究仮説

- ① 子どもを中心に学校・家庭・地域が協議したり協働したりする場を設定すれば、それぞれの教育力が活性化し、互いに支え合い高め合う気運が高まるだろう。
- ② 目的を明確にして、様々な世代の人々と関わり合い、つながり合うようにすれば、多様で豊かな人間関係を築き、自己肯定感や自己有用感を高め、自ら伸びようとする気持ちを高めるであろう。
- ③ 授業の中で、地域のひと・もの・ことを意図的計画的に活用すれば、児童の活用力や探求心を高めることができるであろう。また、このことで、教員自身も活用型・探求型の授業展開ができるようになり、授業力が向上するであろう。

6 研究の組織と役割



7 研究の手立て・方法

- (1) 地域連携教育推進委員会・地域支援ボランティア会の取組
 - ア 地域連携教育推進委員会を組織し、学校と地域をつながりを一層強化する。
 - イ 瑞鳳小ふれあい子ども会議を運営し、子どもや地域の方々の思いや考えを具現化するための方策を考える。
 - ウ 地域支援ボランティア会を組織し、地域コーディネータが円滑に機能するようにする。また、子どもボランティアを組織し、地域で活躍できる場を設定する。
- (2) 連携部の取組
 - ア 「瑞鳳小ふれあい子ども会議」を年4回開催し、児童会役員・議員と地域連携教育推進委員と教職員で、地域や学校の諸課題について話し合い、教育活動を活性化させる。
 - イ 川南保育園との連携と交流活動を推進する。
 - ・毎学期の読書週間に、6年生を中心に園児への読み聞かせボランティアを行う。
 - ・キャリア教育の一環として、保育士体験（5年生）を行う。
 - ・「園児と遊ぼう会」やフェスティバルでの交流会を行う。
 - ウ 地域教材及び地域人材を活用した行事・授業を開発し、実践する。

内容	多文化理解	多世代交流	キャリア教育	ESDと自然体験	防災
地域教材活用(地域に出る)	敬老茶会ボランティア	保育園との交流 地域行事への参加	青空市で販売 保育士体験	矢田川観察 野菜栽培・米作り体験	防災センター見学 自主防災訓練参加
地域人材活用(地域を招く)	三味線体験 おこしものづくり	給食交流会 火おこし体験	岩本ケース招 聘	環境パートナーシップ いちじくジャムづくり	災害対策室・自治 会防災担当招聘

- (3) 授業部の取組
 - ア 「めあて」などのテンプレートを作成・活用し、徹底を図りながら、授業スタンダードを確立する。
 - イ 地域連携の素地となる児童の能力をESDをもとに次のように考え、検証する。

(ア) 建設的に考える力	(イ) 見通す力	(ウ) 柔軟で多様な発想力
(エ) 伝える力	(オ) 共感的人間関係力	(カ) つながり尊重する態度
(キ) 主体的参加意識		
 - ウ 地域の「ひと・もの・こと」を活用した授業の流れ及び、地域貢献できる児童を育成するための授業のあり方を実践研究する。
 また、授業の基本的な流れを次のようにする。
 - ①つかむ力 =生活から課題を把握する。
 - ②つなぐ力 =イメージマップを活用して、様々な考えをつなぐ。
 - ③創り上げる力=議論したり協働したりして、課題を解決する。
 - ④伝える力 =身近な人々に自分の思いや考えを分かりやすく伝える。
 - ⑤続ける力 =課題解決したことを地域や生活で活用し、実践し続ける。
 - エ 各教科や総合的な学習、道徳などで地域教材・地域人材を活用できるようにする。

- (4) 環境部の取組
 - ア 授業スタンダードを実施するための掲示物等を統一して作成するとともに、落ち着きのある教室環境のあり方を検討する。
 - イ 地域の行事に参加できるように、地域カレンダーの作成や地域コーナーの設置等を検討する。
 - ウ アンケートの作成、調査、分析をする。

8 研究構想図

